

35 (野口芳宏教授の語りより)

「観」を磨く ☞ 今週の目標「廊下を走らない」について・・「子供というのは廊下を走るものだ。俺など走れと言われたって走れやしない。一人も廊下を走る子供がいないなどという学校こそが問題なのだ。それは幽霊学校だ。廊下を走るのは子供の本性だよ」

36 「人は、人によって人となる」(ドイツの哲学者：カント)・・最初の「人」は「ヒト」であり、動物の分類上の位置である。最後の「人」は、社会つまり「人の間」で暮らせる社会的存在としての「人間」である。真ん中の「人」は、つまり「教育」である。

37 「理解→表現」か「表現→理解」か

- 「受容」「インプット」がまず優先、充実されることによって初めて、「アウトプット」の充実をみる。
- 静かに人の話に耳を傾け、その言わんとするところを受け止め、分かり、自分を振り返る。そういう人間が、「おとな」である。そういう「おとな」になるように育てるのが、真つ当な教育である。

38 「いじめを生み出さない、よりよい関係づくり」(稲垣孝章 城西国際大学兼任講師)

◆どの子も安心して活躍できる支援(「教師の言葉かけ」編)

- 前置き・・「これから3つ話します。1つ目は、2つ目は、3つ目は」と、前置きをして話します。
- 肯定語・・「～したら～しましょう」と肯定的に話します。
「できなかつたら～しない」は避けます。
- 具体性・・「あっち」「たくさん」「ちゃんと」ではなく、目的や終点、量や回数を明確にします。
- 語調・・声のトーン、抑揚、話す速さの変化への配慮など、語調に変化をつけて話します。
- 非言語・・アイコンタクト、OKサイン、動作、アクションなどの非言語動作を活用します。
- 繰り返し・・子どもの言葉を受容するため、繰り返しを活用して言葉かけをします。
- 称賛・・「〇〇がよくできていたね」など、よい行為を具体的に称賛します。

39 小幡一裕(元井波中校長)先生の「破願一笑」☞裏面参照(ありがとうございます)